

宮崎会員の隨想・「忘れ得ぬ労使の人々」第26話

「オーラを放つリーダー」 山岸章 日本労働組合総連合会（連合）初代会長

労使関係を担当する労働本部長に任命された。配属以来連日部員の言うがままに関係諸方面への挨拶周りに引き回された。

ある日、全電通の年次大会があるのでと日比谷公会堂へ連れていかれた。既に大会は議事進行中で係の方に二階の席に案内された。席に坐し見渡すと大きなホールにびっしり人が詰まり壯観な眺めである。しばらくすると司会者が「只今日本生産性本部の労働本部長が来られ二階席に着席いたしました」と告げたのである。議事の中途なのに全員がこちらを振り向きながら拍手したのである。このような場面があることを全く予想していなかったので驚いた。

案内してくれた部員から『立って頭を下げ皆さんに手を振ってください』と言われて慌てて立ちあがって手を振った。初めての経験であり一致団結する労組のパワーを見せつけられた思いであった。

日をおかず改めて全電通の山岸章委員長の元へ挨拶に出向いた。まず驚いたのは部屋の広さである。これまで大企業のトップの社長室や会長室にも案内されていたが、山岸委員長の部屋は学校の教室ほどもある大きな部屋であった。労組の力、権威の大きさをこれでもかと見せつけられた思いをしたものである。

お目にかかった山岸章さんはネアカで人をそらせない方であった。名刺交換をしたばかりの初対面の私を迎える始にこやかに話しかけられ、あっという間に1時間が過ぎてしまった。辞してから改めて労組のトップは饒舌だと感じた。私が口をはさむ余裕はほとんどなかったのである。

労働組合は、組織された動機も歩んだ歴史もイデオロギーも牽引するリーダーも様々な経緯を辿っていて中には利害相反することも多々ある。

1989年、日本の労働組合のナショナルセンターとして「日本労働組合総連合会（=連合）」を設立



左山岸章連合会長

するため労組はこれまでの様々ななしがらみを捨て一致団結した。傘下の組合員数は800万人と言われた巨大な組織の誕生である。

山岸章さんは創立された連合の初代会長に就任した。初対面の印象と重ね合わせ、あの方なら労組の総帥としての役割を巧みに果たしていくだろうと感じたものである。

以来様々な場面でお会いするチャンスがあった。生産性本部の主催する毎年年初に開催する労働関係最高幹部セミナーにも講師を受け弁舌さわやかに労組の立場から様々な課題を語ってもらつ

た。時を同じくして講師として来られた元総理大臣経験者である海部俊樹氏と連合会長の山岸さんが控



右から山岸連合会長と海部俊樹元総理

室で鉢合わせした。二人は顔見知りで親しげに話しているが、陪席していて驚いたのは山岸さんの態度の大きさであった。総理経験者である海部氏が敬語を使って山岸さんの相手をするのである。貫禄は断然山岸連合会長が勝り同席の元総理がかすんで見えた。

ところで仕事柄これまで多くの方々に接し、講演や挨拶など数え切れないほど沢山の人の話を聞く機会に恵まれてきた。惚れ惚れするような物言いをする方もいれば、高名な方だ

が口下手の方もいる。今まで接していただいた方で聞き惚れるような話術を持った方は、五人記憶に残っている。

連合の山岸章氏、東京大学木村尚三郎教授、慶應義塾大学の村田昭治教授、経済界ではウシオ電機の牛尾治朗会長と住友電工亀井正夫会長である。因みに牛尾治朗氏と亀井正夫氏は日本生産性本部の会長職を務められた。

話し手とは立て板に水のごとく滑らかに話す人ばかりでなく、聞く人を引き込む内容を持った話、歴史を語り、比喩に優れている方などさまざまであるが、中には話が滑らかだが中身がほとんどない人、これをピーマンというそうだがこういう人もいる。

山岸さんの挨拶や講演は聞く人の耳をそばだたせ秀逸である。ある時本人にいつもいいお話を伺っているが、あれは頭に自然に湧いてくるのかと尋ねたことがある。「宮崎さん冗談じゃないよ。私はそんな都合のいい頭は持っていないよ。私はどんな会に招かれても、立場上不意に何か言わねばならないことのためにざっと50通りの話の粗筋を閻魔帳まがいのものに書きつけいつも持っていて、この会合ならこれとこれの組み合わせという具合に使い分けているのだ。人前で話すというのは常に緊張を強いられるよ」と答えたのである。同じ問い合わせをした東大の木村尚三郎先生も山岸さんとまったく同じ述懐をされたことを思い出した。

山岸さんの話は、講演でも挨拶でも平易で判りやすい。駆け引きの果ての政治の話などは自身で一端よく咀嚼して上で、判りやすい言葉で人様に披露するのである。人によっては難しく話を組み立てる人がいるが、聞く側にすればたまたまではない。

山岸さんは大柄な人ではない、外見はやせぎすのごく普通の人であるが自信に満ち、傍で見ても恰好が良かったし人に安心感を与えた。どこにいても山岸さんはいつも体からオーラを発し存在感があった。

晩年国家に功績ありと認められ勲一等瑞宝章を叙勲している。

人望もあり連合を退くとき後輩たちが、山岸さんがいつか時間が取れたら行ってみたいと願っていた船の旅への招待券を送ったと聞いて、人をそらせない山岸さんの嬉しそうな笑顔を思い浮かべたものであ

る。



講演する山岸氏

現役を退き少しは時間ができたのではないかと思い、主宰する生産性トップマネジメントクラブ朝食会で講演をお願いした。朝早いのでホテルを予約しましょうかというと、年を取ったので早起きするので気づかいしなくともいいよと言われ、時間通り現れ参加者と朝食を楽しまれた。

時々山岸さんの坐すテーブルからはわーーっと笑い声が響いた。今まで講師を囲む席から笑い声が起ることがなかったので、さす

が話術が巧みな百戦錬磨の山岸さんらしいと思いながら一体何を話しているのか気にかかったものである。

この時「山岸さんは話題も豊富だし大した人物だね。これまで労組の話など聞きたいとも思わなかつたが、参加したお陰でいい人の話が聞けたよ、さすがだね」とわざわざ告げに来たオーナー経営者の言葉が印象に残った。

山岸さんが連合会長を退いた後、いったい次は誰が引き継ぐのか大いに関心が湧いた。

後任には労組の立場から生産性問題を研究する、全国労組生産性会議=全労生の会長を務めたゼンセン同盟の芦田甚之助氏が、第二代連合会長に就任した。



左芦田甚之助会長と鉄鋼労連斎藤安正氏

全労生は生産性本部が事務を担当していたが私の労働本部長就任と時を同じくした全労生芦田会長とは頻繁な行き来があり互いに気心の知れた間柄であった。

芦田さんは生真面目な勉強家であった。私は困りごとや複雑な労使問題があると情報をもらったり、いきさつや見解を解説していただくなどしばしば相談にのつて頂いた。

とりわけ有難かったことは労組の複雑な人間関係の解説であった。芦田さんはお人柄であろうか常に全方位

外交を心がけていた。傍で見ていてリーダーとは私心を捨て、人はこうあらねばならない、見習わねばと思わせたものである。

雑談のおり”もんじゃ焼き“を食べたことがないといったことを記憶していて、後日鉄鋼労連の斎藤安正さんや造船重機労連の金杉さんらを誘って席を設けてくれる等細かな心使いのできる方であった。ある日の夕刻、渋谷の生産性本部の近くまで来たと立ち寄り、予定が無ければこれから亀戸天神へ藤の花を見に行かないかと誘われ一緒したことがある。振り返ると武骨な労組組織のリーダーでありながら、芦田さんは花を愛する優しい心を持った方であった。

余談であるが息子の結婚披露宴に個人的にも親しかった自動車総連の草野忠義事務局長に列席していたことがある。

この時芦田さんには何も伝えていないにも関わらず、どこかで聞きつけたか過分なご祝儀を頂いた。何より驚いたのは個人に関わるこんなことまで伝わるのかと労組の情報ネットワークに改めて刮目したものである。

芦田さんは連合の会長に就任してからも、多分課題山積ご苦労が絶えないと見え、少々疲れると、約束もなく突然現れ息抜きをしていかれたが、大抵全労生時代の事務局長を務めた盟友の斎藤安正さんと一緒にであった。



右電力総連笹森清会長

連合の3代目会長は鉄鋼労連の鷺尾悦也氏、4代目は全国電力関連産業総連の笹森清会長であった。笹森さんは生真面目で物事に真剣に取り組む思いやりの深い方であった。しばしばお目にかかり四方山話をしたが、連合会長に就任することが決まり内輪のお祝いの席に出た。

笹森さんは「あっちへ行ったら生産性本部にいる宮崎さんとは会う機会が増えるのかそれともへるのかなあ」と呟いたのがとても印象に残っている。

大柄な笹森さんだが少し不安を感じるのか身を縮めてしんみりした物言いであった。

事業面で行き詰った時には電力総連を率いる笹森さんからよくサポート頂いた。病を経て他界されたとき労働組合は惜しい人を亡くしたと残念な気持が湧いた。

連合で思い出されるのは初代事務局長を務めた山田清吾氏である。忙しい方で部員がやっとつかまえ私を同道して紹介してくれた。山田清吾氏はすさまじい経歴の持ち主と聞いた。出身は延岡市にある旭化成のダイナマイト工場だそうだ。

山田さんは闘志を持った人ながら、人を動かし育てる名人だと伝え聞いていたので、いつかゆっくり人を育てる神髄を教えて頂きたいと密かに思っていたが忙しい方で思いは不発に終わった。

退任された後、故郷延岡に帰られ自転車に乗っていて車にひかれて亡くなられたと連合にいた友人から聞いた。聞きたかったことを聞きそびれてしまったことが今更ながら悔まれる。

連合をはじめとする産別や単組には胆力・知力もある魅力的なリーダーが数多くいた。

思い起こすと多くの懐かしい方々の顔が浮かんでくる。諸々を思い時間よ戻れと大声で叫びたい気持ちである。



左連合初代事務局長山田清吾氏